

ただいまご紹介いただきました日本スペースイメージングの神山と申します。私どもの会社は1998年に三菱商事によって設立された会社でございます。10年間米国が偵察衛星の技術を商用化するときに1メートルの高解度衛星を受信し運用してそのデータを販売するという仕事をやっております。災害監視という意味では、皆様もご記憶にあるかと思いますが、2004年に中部中越地震が発生いたしました。その際にいち早く私どもが衛星で被災地を撮影しましてすぐ政府関係者にお届けして災害の復興計画の立案のお役に立てたのではないかと思います。このように衛星の画像というのは災害にとっても役に立つのですが、光学衛星というのはデジカメと一緒にございまして夜ですとかあるいは雲がかかっているときは全く役に立ちません。だいたい自然災害というのは都合よくいつも晴れているわけではございません。雲がかかっていたり、夜に地震が起こったりします。そういった意味で天候に関係なく、昼夜関係なく撮影が出来る「レーダー衛星」というものに大変注目しておりましてそれでちょうど2年前にイタリアが計画しておりましたコスモスカイメッド、これに注目しましてイージオックス様とMOUを結びまして日本でのレーダー衛星での権利を私どもが持った次第でございます。

今日は災害管理システムということで少し簡単に私どもが何をやっているかということをご紹介したいと思います。今ご覧いただいておりますのが衛星データを有効に使う為のプラットフォームになります。私どもは今「GITA-JAPAN」というNPOに参加しております。これは何かと申しますと「GITA」というのが「GEOSPATIAL INFORMATION & TECHNOLOGY ASSOCIATION」の略なんです。コロラドに本拠地がありまして、日本支部になります。メンバーには日本の民間企業の中で社会インフラ関係に近い企業がいまして、例えばJR東日本コンサルタントさん、東京ガスエンジニアリングさん、電力中央研究所等の社会インフラ関係の会社、それから衛星だけでなく航空写真も使いますので航測会社それからIT企業というようなメンバーで構成されております。このGITA-JAPANでは自然災害が起きたときに政府、地方自治体、災害防災機関、それから社会インフラ企業など様々な地理空間情報を取り扱うプラットフォームを提案しております。このプラットフォームのことを自然災害用マッシュアップシステムというふうに呼んでおりまして、平時からあらかじめ防災関連の地理空間情報を集めておいて災害が起きたときにはその分析ですとか、あるいは復旧対策に役立てようということをやっております。

具体的な事例ですが、私どもは過去10年間光学衛星をやっている関係で日本全国の1メートルの画像をデータベースで既に持っております。このデータベースにWEBインターネットそれからユーザーから見るとグーグルという使いやすいインターフェースのお陰で利用者が1メートルの解像度のサーバーにアクセスできるASPサービスを始めております。これをベースにしまして先程のGITAのメンバーであるJR東日本コンサルタントさんと一緒に、彼らの持っている空間情報、例えば線路の情報ですとかそれから線路脇には地震の震度計などが埋め込まれておりまして、そういった情報を私どもの衛星画像に積み重ねるわけです。仮に東北で地震が起きたというとき、どれくらいの被災状況になるかをシュミレーションしたのがこちらの画像です。これは本当に一例でございまして画像自体には高波データなども入っておりますので、津波のときどれほどの被害をも

たらずかというシミュレーションなどできます。従ってこういった様々なデータを持ち合っ
てスマッシュアップして、将来の日本の防災、また災害が起こったときの災害管理とい
うものにお役が立てるのではないかと考えております。

日本とイタリアの関係ですが、我々がこのようなシステムを持っているのと同じように
イタリアでも同様なプラットフォームを開発しております。従って日本とイタリアでこ
ういったシステムを相互で運用しあうことで、防災のシステムに衛星がお役に立
てるのではないかと考えております。それからもう一つ今日午前中イタリア宇宙機
構のサッジェーゼ社長からお話がありましたが、イタリア政府はコスモスカイメ
ッドという衛星を持っておりますが、イタリア政府、日本政府がお互いにMOUを
結ぶということがありますので、我々も民間同士が手と手を取り合っ
てしっかりとお役に立てたいと思っております。以上で私の発表を終わります。